

谷津田の暮らし① 小山町の季節の行事・前編

谷津田で農作業していると、地元の方が声をかけてくださり、たわいない世間話などをします。そんな会話のなかには、農作業の知恵や昔の谷津田の様子、受け継がれてきた風習などがちりばめられています。このような地域に根ざした独特の文化や風習から谷津田の魅力や奥深さをご紹介していきたいと思えます。（なお、個人の方からのお話ゆえ、その家でアレンジされたり、簡略化されていることもありますこと、ご了承ください。）今月号では、季節の行事でふるまわれる食事などについてお話を伺いました。

（文責：編集部）

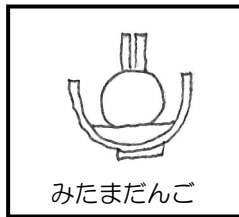
■お正月

お正月といえば、おせち料理にお雑煮。おせち料理は一般的な煮物中心のお料理だそうです。お雑煮は地域によって異なり、その違いは興味深いものです。小山町のあるご家庭では、かつお節とこんぶのだしに、丸もち、さといも、小松菜、しいたけといった精進料理風のお雑煮に、房総地域ならではの「はばのり」「シートの青のり」（青のりにシート状のものがあるそうです！）を軽く火であぶって手でもみほぐし、かつお節をのせて磯風味豊かなお雑煮の完成です。

■お盆

お盆のお供えや料理なども地域によって様々です。このご家庭では、図のようなお供えを用意するそうです。特徴的なのは、仏壇前のお膳です。お盆の8月13日～16日の4日間、毎食8膳も用意するそうです。テーブルの上の6膳は、ご先祖様のために、残り2膳は無縁仏のためにテーブル下にお供えします。

13日の夜は、迎え火と共にお盆のお団子をもち米でなく、うるち米で作ります。14日の夜は、「みたまのだんご」を作ります。これは、茶わんにご飯をうすくひき、そのうえにピンポン玉くらいのおにぎりをのせ、2本のすげをおはしのようにそのだんごにさします。お昼ごはんは、そうめんやうどんなどのめん類を用意し、16日の送り火には、たきこみご飯やお赤飯などを炊くそうです。



みたまだんご

■秋祭り

10月20日に熊野神社の秋祭りが行われます。この祭りは、秋の収穫に感謝する意味がこめられています。神社でお参りしたあと、各家庭で用意した、祭り寿司、煮物、さしみ、天ぷらなどを持ち寄り、集落の人々が食事したり、お酒を飲んだりします。

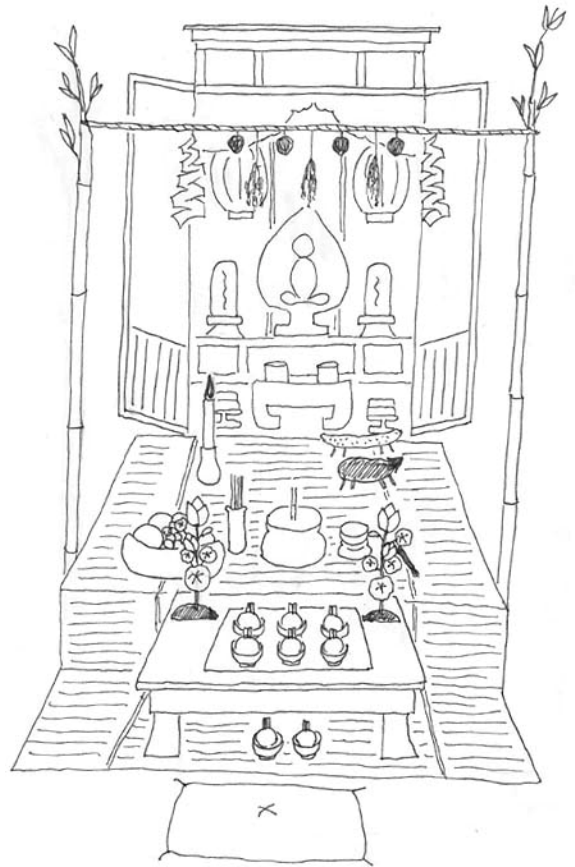
この祭り寿司というのは、房総寿司といわれる太巻き寿司です。ごはんやのり、色づけしたかんぴょう、紅ショウガや野沢菜などの具材で、かたつむりやしょうぶ、つばき、ばら、ちょうちょといった模様を巻きながら作っていく、房総ならではの寿司だそうです。子どもたちにも喜んで食べてもらえるよう、シーチキンやスモークサーモンなどの具材を使ったり、さまざまな模様をアレンジしたりしているそうです。

■暮れ～2月ごろ

お正月に食べるおもち以外に「棒もち」といわれるコシヒカリのうるち米のもちもつくりします。ふかした米を、発動機といわれる機械でつくると、棒状にでて来ます。それを10～15cmくらいにハサミで切り、乾燥した晴れの日1週間ほど干します。乾いて固くなったものを水の中に入れて保存します。そのため、水もちとも言われます。水はこまめに換え、春頃まで保存できます。

ゆでてあまからいたれにつけたり、きりたんぽのようにおなべにいれたりして食べます。もちろん、普通に焼いて食べてもおいしいです。

*次号では、七五三など子どもの成長にまつわる行事について、ご報告します。



お盆のお仏壇飾り（イラスト 江澤芳恵）

マルタニシ

タニシという名前を知らない方はほとんどいないと思います。古くから食用にされており、食べたことがある方もいらっしゃるでしょう。漢字で「田螺」と書き、螺は巻き貝を指す古い言葉で、タニシというのは田んぼで暮らす巻き貝という意味です。田んぼの主、「田主」から来たという説もあるようです。田んぼでよく見かける背丈が6センチくらいで丸く膨らんだタニシは正式な名前をマルタニシと言います。同じくらいの大きさのタニシにオオタニシがいま



すが、マルタニシよりも膨らみが弱く、巻いているところが少し角張っているという違いがあります。オオタニシは川や沼で見かけることの方が多いようです。



田んぼをはい回るマルタニシ (小山、2009/11/21)

マルタニシは殻の表面を緑がかった黒い皮で覆われています。田んぼの泥の表面を歩きながら泥の中にある栄養物を食べたり、植物の茎に付いている藻を食べたり、水を吸い込んで中に含まれている栄養を取ったり、様々な食事法で生きています。タニシの歩いた跡はウネウネした複雑な線になっていておもしろいですね。タニシの仲間は卵をメスのお腹の中でかえして子貝が親の体から出てきます。マルタニシは初夏に30~40個のとても小さな赤ちゃんを産みます。

寒さや乾燥に強く冬場は泥の中や窪みに身を潜めています。そんなマルタニシですが、農薬や田んぼの圃場整備の影響で急に数を減らしていて、環境省のレッドリストでは「準絶滅危惧種」に指定されています。千葉でも県の一般保護生物、千葉市の要保護生物にリストされて、保護の必要性が訴えられています。

(高山邦明)

大椎小学校 初(!)味噌仕込み

千葉市緑区の大椎小学校にて、新五年生のみなさんと一緒にお味噌を仕込みました！

去年の五年生が小山の田んぼで育てたコシヒカリを筆者が米麴にして、それをみんなで大豆と塩と一緒にまぜて容器につめました。

昔ながらの味噌仕込みは練ったり握ったり、一人でするととても大変な作業ですが、たくさんの元気な子供達に少しずつ挑戦してもらうことができました。最後は一人一個ずつ、味噌のものを団子状に握って容器にたたきこんでもらいました。「空気が入らないように、思いっきりたたきこんで！」と言っても、みんなおっかなびっくり。「ほんとにいいの？」と聞き返してくる子が少ない中、「バチーン！」ととてもよい音を響かせてくれた子もいました。

味噌仕込みの一連の作業の中で一番性格が出る場所だなあ、と思いました。

麴は多めに作ったので、余った分は六年生に試食してもらいました。どんな味だったかな？

今回仕込んだ味噌の量は約7キログラム。学校内の秘密の部屋でじっくり熟成させて、出来上がりは来年一月の予定です。うまく出来たら田んぼで収穫する予定のお米と一緒に食べようね。みんなの笑い声を隠し味に仕込んだお味噌、どんな味になるかな？ もちろん、麴用のお米を作ってくれた六年生にもご馳走しますよー♪ うまくできますように！

(2010年4月30日 大友英寿)





里山たんけんレポート

第123回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2010年4月4日(日) くもり

集合場所の山の中はタチツボスミレがいっぱいです。道端に茎の中が3cmにもなっていてちょっとギョッとする姿のセイヨウタンポポがありました。帯状化*と言うそうです。今日の日当てのひとつアマナの花も寒さと曇天のせい少し萎んだ状態でしたが咲いていました。アマナの花のそばではヤマカガシがとぐろを巻いていました。みんなに囲まれてそそくさと隠れてしまいました。湿地ではショウブやキショウブの芽も大きく伸びていましたショウブの香を楽しみながら桜の木の下へ。毎年、オオシマではないか、いやヤマザクラではないかと言っていた谷津田の中に生えている桜です。今日は図鑑とルーペを手にじっくり観察。並んで数本の桜がありますが意見が分かれる筈、外見からは判りませんがそれぞれの特徴をもっている木があって、結局オオシマザクラとヤマザクラと両方あるという結論になりました。花と葉が同時に出て葉が緑なのがオオシマ、赤いのがヤマと言った簡単なものではありませんでした。田んぼに出て、水のあるところ全面に広がるニホンアカガエルのオタマジャクシと一箇所に真っ黒く固まっているアズマヒキガエルのオヤマジャクシを見比べました。解散場所に戻ったところ、参加者の子どもさんが前のU字溝で羽化したばかりのニホンカワトンボを見つけました。寒い日に羽化してしまい、しまった! と思っているのではないかなど同情してしまいました。それにしても早い羽化です。



巾が3cmにもなったタンポポの茎
 (参加者 大人11名、子ども7名; 報告: 網代春男)

*帯状化: 帯化(たいか)、綴化(てっか)、石化(せっか)とも言います。通常は「点」のようなひとつの成長点が何らかの原因で線状に変化したものでその結果生長の軌跡である茎は棒状ではなく幅広の帯状になります。原因は一概には言えず、昆虫や細菌によって生長点が傷つけられ生じたもの、遺伝子の変異を起こした結果生じたもの、科学物質によるとみられるとテレビで報じられたこともありました。

第107回 下大和田 YPP「苗代づくり」

2010年4月10日(土) くもり

うす曇りの中、谷津田にたくさんの方が集まりました。今回のYPPは、ちば環境情報センター(CEIC)と千葉子ども交流館様との共同プロジェクトの田んぼ講座およびCEICが今年新たに始めた全10回の田んぼ講座の共同開催となったためです。スタッフからの挨拶と説明の後全員で春の谷津田の散策をしました。自然観察会です。飛び始めたシオヤトンボ、水路ではシジミを見つけ、田んぼではシュレーゲルアオガエルが鳴いていました。初めての方も多かったのですが皆さん熱心な方方でスタッフの説明のメモを取る方、質問をされる方もいらっしゃいました。昼食後は苗代づくりです。あらかじめ用意した場所に全員で種籾を撒きました。種類は古代米の緑米・黒米・赤米、そしてコシヒカリと農林1号の計5種類です。田んぼに入るのが



まいた籾を上から手でそっと押さえて埋め込みます
 (撮影: 田中正彦)

始めての方が多く、最初は大人も子供も泥に足を取られ四苦八苦の様子でした。しかし次第に慣れてくると泥の感触を楽しんでいました。中には長靴を脱ぎ裸足になる方もいて谷津田に歓声があがっていました。最後にビニールでトンネル型の保温室をつくりました。これから始まる米づくりの第一歩が終了しました。

(参加者55人、報告: 平沼勝男)

第54回 小山町 YPP「田起こしとコシヒカリの苗代づくり」

2010年4月10日(土) 晴れ

今年の米づくりに向けて田起こしとコシヒカリの苗代づくりをしました。家族連れのほか、今年も小山で米づくりをする大椎小学校から7名の先生方が参加して下さいました。皆さん元気いっぱい、大椎小田んぼとYPP田んぼを起す作業をあっという間に終えてしまい、時間があつたので地元の方のお手伝いをしている田んぼも1枚起こしていただき、大助かりでした。苗代は田んぼの一角に作り、子どもたちが中心となって芽だしをした籾をまきました。

シュレーゲルアオガエルが合唱し、畦際ではシオヤトンボの羽化が始まっていました。林では旅立ち前のアオシガがさえずりの練習をしていて、まさに春本番の谷津田でした。

(参加者大人17人、小中学生5人、幼児1人; 報告: 高山邦明)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 4月4日 木々が一斉に芽吹いた林の縁でモミジイチゴが咲く。カケスが鳴きまねをしていた(高山)。
4月11日 早朝林の中からトラツグミの鳴き声が聞こえてきた。アオジも旅立ち前にさえずりの練習中(高山)。
4月18日 冬のような寒さ。シュレーゲルアオガエルの卵塊を見つける(高山)
4月25日 地元の方の田んぼで田植えが始まる。モズがメジロ、ヒヨドリなどの鳴きまねをしていた(高山)。

下大和田

- 4月4日 草原でヤマカガシが日向ぼっこをしていた。寒いようで動きが鈍い。アカガエルも見ることができた。キランソウ、アマナ、クサボケがきれいに咲いていた。森の中ではタチツボスミレが咲き誇っていた。水路の底をすくうとカワトンボのヤゴがいた(平沼)。
4月29日 午前中、道路脇のU字溝(YPP田んぼからトンネル近くのT字路までの間)でヤマサナエが羽化していた。その数11匹。ほかにカワトンボをみた。もう成虫になっている。シオヤトンボも活発に飛び回っていた。田んぼではシュレーゲルアオガエルが大合唱をしていた(平沼)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第109回 下大和田 YPP「みんなでわいわい! 田植え」

今年はコシヒカリと古代米の両方を一緒に田植えします。たくさん植えることになりませんが、みんなでにぎやかに楽しく作業をしましょう。

日時: 2010年5月15日(土) 予備日16日、10:00~14:00、小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴(長め、できればホームセンターで販売している田植え用長靴)、軍手、敷物など。

参加費(資料代等): ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第125回 下大和田 6月の谷津田観察会とごみ拾い

従来目視による観察をしてきましたが、捕虫網を持ってスーピングによる昆虫採集を試みて普段目にしない生きものを観察します。

日時: 2010年6月6日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼第55回 小山町 YPP「コシヒカリの田植え」・第56回「古代米の田植え」

いよいよ田植えです。コシヒカリと古代米を1週おきに植えます。小さなお子さんの参加も歓迎です!

日時: コシヒカリ2010年5月29日(土)、古代米6月5日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場
(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴(長め、できればホームセンターで販売している田植え用長靴)、軍手、敷物など。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 3月から4月にかけて異常な低温が続いたために全国的に農作物に影響が出ています。稲作も苗の生育が悪く、田植えが終わった田んぼを見てもいつもよりも稲の背が低いのが目立ちます。田んぼの一角に水苗代を作っているYPPの田んぼも背丈の伸びが遅いのが気がかりです。米づくりは自然相手なのでこればかりは致し方なく、天候の回復を天に祈るばかりです。
(高山邦明)

